

令和7年度広瀬川における天然アユ遡上調査結果（6月分）

令和7年6月30日
宮城県水産技術総合センター

宮城県水産技術総合センターでは、アユ釣り解禁前の情報提供と資源管理のための基礎データを得るため、毎年5月と6月に広瀬川において、天然アユの遡上状況を調査しています。本年度の6月分の調査結果は、以下のとおりです。

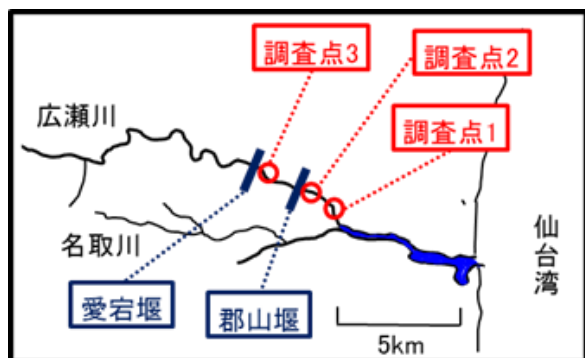


図1 アユ遡上調査地点

（1）調査点

調査点1：名取川との分岐点から

500m上流（河口から7.5km）

調査点2：郡山堰下（河口から10km）

調査点3：愛宕堰下（河口から11.5km）

（2）調査実施日

6月9日、20日

（3）調査方法

各調査点において、投網を10投し、1投あたりの平均採捕尾数を求めました。また、1調査点あたり50尾のアユを当场に持ち帰り、体サイズ（標準体長および体重）を測定しました。広瀬名取川漁業協同組合では、調査日以前に人工種苗のアユを放流しているため、測定した50尾のアユから人工種苗の混入率を算出し、求めた平均採捕尾数の値を補正しました。また、令和5～6年度は北上川産天然種苗の放流も行っており、広瀬川の天然アユとの区別はできませんでしたが、総数に対して少数なので、補正には考慮していません。



図2 調査風景①



図3 調査風景②

(4) 調査結果

各調査地点の天然アユの平均採捕尾数

各調査地点における天然アユの平均採捕尾数（平成30年（2018年）から令和4年（2022年）までの最大値と最小値を除いた平均値及び直近3ヶ年）を図4に示しました。また、アユの平均体長を表1に示しました。また、令和5年度は人工種苗の判別を行っていませんが、最上流の調査点3よりも上流で放流していること、これまでの調査でも混入率が小さかったことから、すべて天然アユとして取り扱っています。

○調査点1

投網1投あたり11.9尾（6月上旬）、29.4尾（6月下旬）でした。上旬、下旬とも過去の調査年度よりも尾数が減少していました。また、昨年度と比較すると体長は小型化の傾向がみられました。

○調査点2

投網1投あたり103.4尾（6月上旬）、25.3尾（6月下旬）でした。上旬は過去2年と比べて非常に多くのアユが採捕されました。また、昨年度と比較すると体長はやや小型化の傾向がみられました。

○調査点3

投網1投あたり31.9尾（6月上旬）、79.4尾（6月下旬）でした。下旬では過去2年と比べて多くのアユが採捕されました。また、昨年度と比較して小型の傾向がみられました。

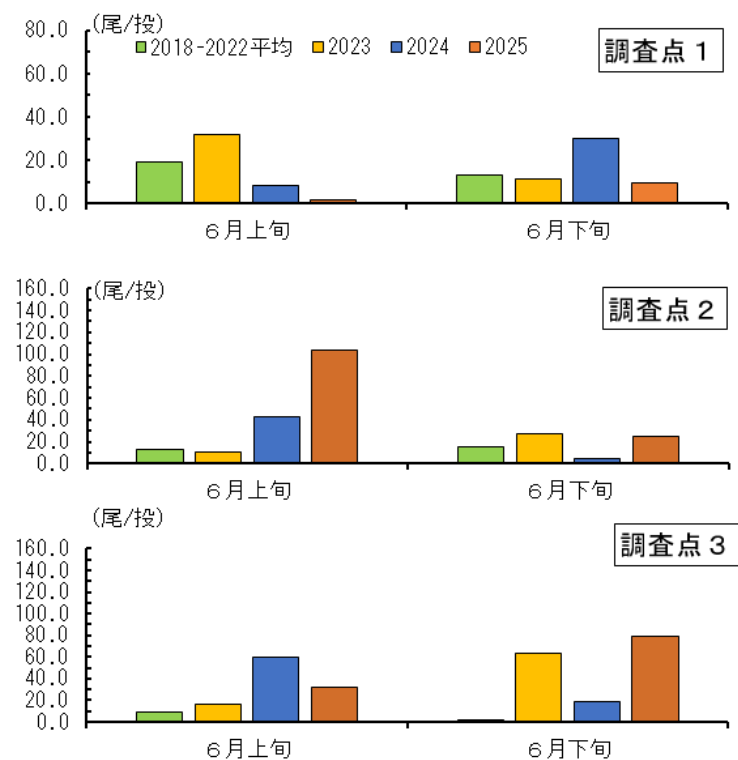


表1 各調査点のアユの体長

採捕年月	調査点1	調査点2	調査点3
R7.6月	7.54 ± 1.48	8.04 ± 1.94	7.59 ± 1.76
R6.6月	9.09 ± 1.51	9.14 ± 1.84	9.13 ± 1.62

単位：cm、±は標準偏差（標本のばらつき）

図4 各調査地点における天然アユの平均採捕尾